

令和 6 年度

学校評価



令和 7 年 3 月

山梨市立日下部小学校

令和6年度学校評価の概要について

■ 1 学校評価のねらい

- ① 各学校が、自らの教育活動その他の学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価することにより、学校として組織的・継続的な改善を図ること。
- ② 各学校が、自己評価及び保護者など学校関係者等による評価の実施とその結果の公表・説明により、適切に説明責任を果たすとともに、保護者、地域住民等から理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めること。
- ③ 各学校の設置者等が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講じることにより一定水準の教育の質を保証し、その向上を図ること。

※ 学校評価は、あくまでも学校運営の改善による教育水準の向上を図るための手段であり、それ自体が目的ではない。学校評価の実施そのものが自己目的化してしまわないよう、地域の実情も踏まえた実効性のある学校評価を実施していくことが何よりも重要である。

■ 2 学校評価の実施手法

- ☐ 自己評価：教職員による評価（Forms を利用した回答と分析）
（児童・保護者を対象に行うアンケート（Forms）を行い、学校評価に活用する）
- ☐ 学校関係者評価：PTA運営委員会、学校運営協議会による学校運営に対する意見交換
（自己評価結果の公表と評価 それに基づく次年度経営方針の承認）
- ☐ 第三者評価：第三者（当事者・関係者でない者）による評価

■ 3 学校評価の年間計画

- （1）自己評価、児童・保護者アンケートを実施し、結果を考察する。
- （2）改善点を明確化・焦点化し、改善策を立案・実施する。
- （3）設置者（市教委）に報告する

ア→アンケート実施 分→教職員による結果の共有・分析→改善策の立案・実施

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
教職員				ア	分						ア 分	
児童				生活 ア 分			生活 ア 分	ア	分		生活 ア 分	
保護者								ア	分			
P T A C S											P 運営 委 C S	報告

■ 4 評価の実施日

- 自己評価 〈前期〉 令和 6 年 7 月 10 日（水）～17 日（水）実施
 〈後期〉 令和 7 年 1 月 15 日（水）～31 日（金）実施
- 保護者アンケート 令和 7 年 2 月 18 日（火）～27 日（木）実施
- 児童アンケート 令和 7 年 2 月 26 日（水）～28 日（金）実施

■ 5 評価方法・項目の見直し

- ・本校のグランドデザインに合わせ、学校教育目標「自ら学び 心豊かで たくましく生きる児童の育成」を基に「確かな学力の育成」「豊かな心の育成」「健やかな体の育成」「望ましい集団の育成」の 4 つの観点について教職員、保護者、児童がそれぞれから評価できるよう、項目内容を整理した。また、「持続可能な学校教育の創造」「ICT 機器の活用」「SOS の出し方教育の推進」「学校運営協議会」の 4 点を項目の中に織り交ぜて、今日的な教育課題についての評価へも対応できるようにした。

■ 6 評価結果から

【自己評価】

- ・評価項目数 22
- ・前期自己評価の評価結果をもとに、関係する分掌主任を中心に、分析・整理を行い年度後期の取組を設定。3 学期に後期自己評価を行い、同じく分析・整理を行い、次年度への方向性（案）を設定した。

【保護者アンケート】

- ・評価項目数 18

【児童アンケート】

- ・評価項目数 11
- ・回答対象は全児童
- ・保護者アンケートの結果と併せて分析

学校評価 アンケート項目



令和6年度学校評価評価項目		
教職員評価項目		
		A:十分にできている B:ほぼできている C:あまりできていない D:できていない
		★:主語は「学校は」と読み替える。
項目	No	評価
学校経営・組織	1	学校経営方針（グランドデザイン）に基づく教育活動を推進している。
	2	★教育目標の具現化に向けて、組織的・機能的に取り組むよう努めている。
	3	安全・安心な学校環境づくりに向け、課題改善を進め、危機管理体制の充実に努めている。
	4	働き方改革も含めた持続可能な学校教育を創造する意識を持って、職務遂行にあっている。
	課題・意見	
確かな学力	5	主体的・対話的で深い学びの充実に向け、ICT機器を活用した授業づくりに努めている。
	6	授業に有機的に結び付けられるよう、家庭学習（宿題や課題）の充実に図っている。
	7	★特別支援教育、通級指導の充実に努め、組織的に連携した教育を推進している。
	8	学校図書館を利用し、読書を通じた国語力の向上につながるよう努めている。
	課題・意見	
豊かな心・望ましい集団	9	いじめ防止基本方針を理解し、それに基づいた取り組みを推進している。
	10	児童の共感的理解に努め、愛情と信頼に基づく生徒指導に努めている。
	11	SOSの出し方に関する教育の実施や生活アンケート等を通じ、関係機関とも連携した組織的支援の充実に努めている。
	12	体験的活動を重視し、思いやりの心や公德心を育む道德教育の充実に努めている。
	13	児童会活動や清掃活動、当番活動等を通して自主性、社会性、協調性の育成に努めている。
	14	明るく爽やかなあいさつ、場に応じた言葉づかい等、美しい言語表現の育成に努めている。
	15	学級力向上プロジェクトを活用し、望ましい学級集団・学習集団の形成に努めている。
	課題・意見	
健やかな体	16	生活の安全、交通安全、防災等の安全教育に取り組んでいる。
	17	家庭との連携による基本的な生活習慣の育成に努めている。
	18	楽しみながら自ら体を鍛える継続的な「健康・体力づくり」に取り組んでいる。
	課題・意見	
地域・社会に開かれた学校	19	地域や保護者の学校教育参画促進のため、学校運営協議会の理解を深め活動が充実するよう努めている。
	20	地域人材を生かした教育の推進に努めている。
	21	★地域や保護者に学校の教育活動について発信するよう努めている。
	22	★安心・安全な学校・地域を目指し、地域・保護者との連携に努めている。
	課題・意見	
全体	意見等	

令和6年度学校評価評価項目		
保護者評価項目		
A:そう思う B:ややそう思う C:あまりそう思わない D:そう思わない E:わからない		
項目	No	評価
学校経営・組織	1	お子さんは、楽しく学校に通っていますか。
	2	学校は、自ら考え、進んで学習する子どもの育成を目指した教育をしていると思いますか。
	3	学校は、防災防犯などの危機管理に努め、自ら命を守る子どもの育成を目指した教育をしていると思いますか。
確かな学力	4	学校は、積極的にICT機器の活用を進め、確かな学力の育成に努めていると思いますか。
	5	学校は、個に応じた教育の充実のため、職員同士が連携して教育を進めていると思いますか。
	6	お子さんは、すすんで読書をしていますか。
	7	お子さんは、家庭学習（宿題・10分読書・自主学習）に進んで取り組んでいますか。
豊かな心・望ましい集団	8	学校は、いじめの早期発見に努め、いじめをなくすための指導に努めていると思いますか。
	9	学校は、思いやりの心や公德心を育む道德教育の充実に取り組んでいると思いますか。
	10	学校は、様々な体験活動を通して、自主性や社会性、協調性を育む教育に取り組んでいると思いますか。
	11	お子さんは、あいさつや返事などがしっかりできますか。
	12	子どもの生活や学習のことで、学校や担任の先生に気軽に相談ができますか。
健やかな体	13	学校は、家庭と連携を取りながら、基本的な生活習慣の育成に取り組んでいると思いますか。
	14	学校は、児童が楽しみながら健康・体力づくりに励むよう取り組んでいると思いますか。
地域・社会に開かれた学校	15	学校は、地域や保護者が学校教育へ積極的に参加するよう推進していると思いますか。
	16	学校は、地域の人材等を生かした教育の推進に取り組んでいると思いますか。
	17	学校は、学校での取組を積極的に家庭や地域に発信していると思いますか。
	18	学校は、児童の安心、安全の確保のために、家庭や地域との連携に取り組んでいると思いますか。
全体	意見等	

令和6年度学校評価評価項目		
児童評価項目		
項目	No	評価
学校経営・組織	1	あなたは、楽しく学校に通っていますか。
	2	あなたは、地震が起きた時や不審者にあった時に、正しく行動できると思いますか。
確かな学力	3	あなたは、読書をしていますか。
	4	あなたは、家庭学習（宿題・10分読書・自主学習）をしていますか。
	5	あなたは、授業で、自分で考えたりすすんで学習に取り組んだりしていますか。
豊かな心・望ましい集団	6	あなたは、あいさつや返事をしっかりしていますか。
	7	あなたは、いじめをせず、友だちと協力したり、仲良くしたりしていますか。
	8	あなたは、交通ルールや学校の決まりを守るようにしていますか。
	9	あなたは生活や学習のことで、担任の先生や学校の先生方に気軽に相談できますか。
健やかな体	10	あなたは、進んで運動したり外で遊んだりしていますか。
地域・社会に開かれた学校	11	あなたは、家の外で安心して遊んだり、安心して登校や下校していますか。

学校評価

評価結果

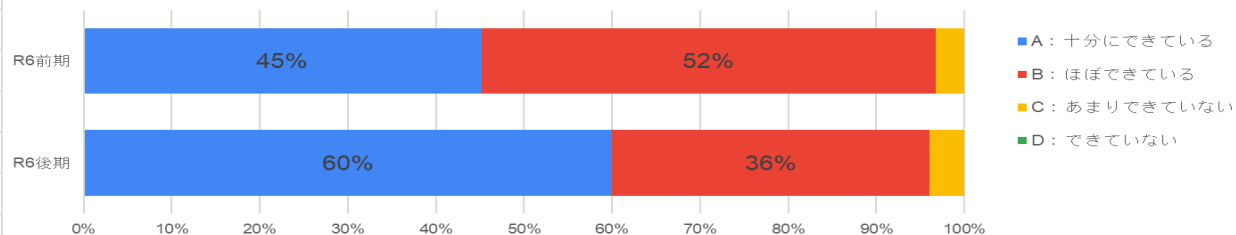


令和6年度 日下部小学校の教育 教職員自己評価の結果

令和 6 年度学校評価（前期自己評価）結果の分析・改善案の立案						学校経営・組織																
分析・立案担当：		校長 教頭 三澤																				
良い点																						
・避難訓練、引き渡し訓練、防犯教室等を計画的に行うことができ、安心、安全な学校づくりの評価が高くなっている。																						
・教育目標の具現化に向けて、職員が同じ方向を向いて取り組んでいる。																						
・火曜日課を行うことで、放課後の時間に多少ゆとりが出ている。																						
課題点		改善策			取り組み																	
働き方改革のさらなる推進。		働き方改革の具体例等を示す。			できそうな取組から少しずつ実践していく。																	
人材の確保																						
以下は後期自己評価後に記入																						
成果		課題点			次年度の方向性（案）																	
・教職員の異動も多く、浸透までに時間のかかる部分はあったが、全職員がグランドデザインに基づき、一丸となって教育活動にあたり、学校教育目標の達成により近づくことができた。 ・計画に避難訓練・防犯訓練を全て行えたことで児童の間にも「自分の命は自分で守る」という意識がより高まっている。 ・教務主任を中心に校務のD X 化が進み、働き方改革につながっている。		・働き方改革の理念共有はできているものの、業務の縮小や削減が十分にできないことから実効性が伴わない状況となっている。 ・より様々な場面を想定した避難訓練、防犯訓練等のなるべく早い時期での実施。			・グランドデザインを教職員に確実に浸透させ、学校教育目標のより確実な達成に向けて、校務分掌を再編し、より組織的・機能的に教育活動が推進できるようにする。 ・管理職がイニシアチブを取りつつも、働き方改革が実効性を伴うようなアイデアを集め取り組む。 ・学年、ブロック等で連携を密に取り、役割分担を明確にした上で校務に取り組む。 ・早い時期での避難訓練等を計画的に実施していく。																	
学校経営・組織 1																						
★学校経営方針（グランドデザイン）に基づく教育活動を推進している。																						
<table><tr><th>時期</th><th>A: 十分にできている</th><th>B: ほぼできている</th><th>C: あまりできていない</th><th>D: できていない</th></tr><tr><td>R6前期</td><td>48%</td><td>45%</td><td>7%</td><td>0%</td></tr><tr><td>R6後期</td><td>40%</td><td>60%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr></table>								時期	A: 十分にできている	B: ほぼできている	C: あまりできていない	D: できていない	R6前期	48%	45%	7%	0%	R6後期	40%	60%	0%	0%
時期	A: 十分にできている	B: ほぼできている	C: あまりできていない	D: できていない																		
R6前期	48%	45%	7%	0%																		
R6後期	40%	60%	0%	0%																		
学校経営・組織 2																						
★教育目標の具現化に向けて、組織的・機能的に取り組むよう努めている。																						
<table><tr><th>時期</th><th>A: 十分にできている</th><th>B: ほぼできている</th><th>C: あまりできていない</th><th>D: できていない</th></tr><tr><td>R6前期</td><td>52%</td><td>48%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr><tr><td>R6後期</td><td>64%</td><td>36%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr></table>								時期	A: 十分にできている	B: ほぼできている	C: あまりできていない	D: できていない	R6前期	52%	48%	0%	0%	R6後期	64%	36%	0%	0%
時期	A: 十分にできている	B: ほぼできている	C: あまりできていない	D: できていない																		
R6前期	52%	48%	0%	0%																		
R6後期	64%	36%	0%	0%																		

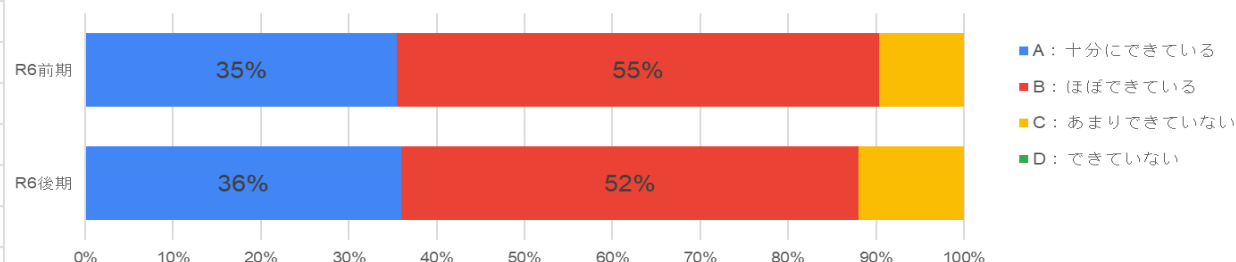
学校経営・組織 3

安心・安全な学校環境づくりに向け、課題改善を進め、危機管理体制の充実に努めている。



学校経営・組織 4

働き方改革も含めた持続可能な学校教育を創造するいしきを持って、職務遂行にあっている。



学校経営・組織 課題・意見（前期）

- ・職員が協力し組織的に課題に取り組んでいる。安全面で、学校の門及び教室の施錠がしっかりできると良い。
- ・学校経営方針を基に、チームの一員として職務遂行に当たるよう努めている。
- ・持続可能な学校教育について。行事や教育課程の精選を行い、無理のない教育活動を行っていききたい。実際、主に市からの要望などがあるため難しいところもあるが、学校側からできることとできないことがあるということを伝える必要を感じます。
- ・仕事量が多く、働き方改革の意識をもつことも難しかった。
- ・学校教育目標に関わって、様々なことを学校全体で共有しながら活動できていると感じる。
- ・今本校にいる先生方を適材適所に配置し、教育活動を進めている。しかし、1学期を終えてまだまだ人材確保が必要であると感じる。支援が必要な児童に、確実に補助の先生を付けられるようになると良い。
- ・慣習を変える勇気を全員に持ってほしい

学校経営・組織 課題・意見（後期）

- ・限られた労働時間の中で、全体の活動を視野に入れて担当する内容が過大な活動とならないように、各職員も意識しながら遂行する必要があると思います。
- ・学校環境では、日当たりの悪い教室、寒い教室などがある。また、石油ストーブが室内空気環境がよくない。
- ・働き方改革についてそれぞれが意識的に行っているのは感じるが、組織としての意識がもう少し高まることを願っている。行事の精選や余裕をもった授業時間の確保などに取り組み、持続可能な学校教育を目指していく必要を感じている。
- ・職員で協力し、課題に取り組んでいる。
- ・働き方改革を進めたいのはやまやまだが、仕事が多く推進できなかった。
- ・組織も大きいので、全員で同じ方向を向いて取り組んでいく難しさは感じるが、組織全体としては共通理解のもと取り組んでいたと感じる。
- ・働き改革を進めていくには、やはり人材確保が必要だと思う。今年度も県への働きかけをして下さっているが、今後も粘り強く現状を伝えてかなくてはいけないと感じた。
- ・欠員解消・人材の確保を進めることが働き方改革の追い風になる。
- ・校務分掌の主任の先生に仕事の比重が偏っている部分が多少あると感じる。職員間の様子に気を配りながら、支えあうために動けるように努力したい。

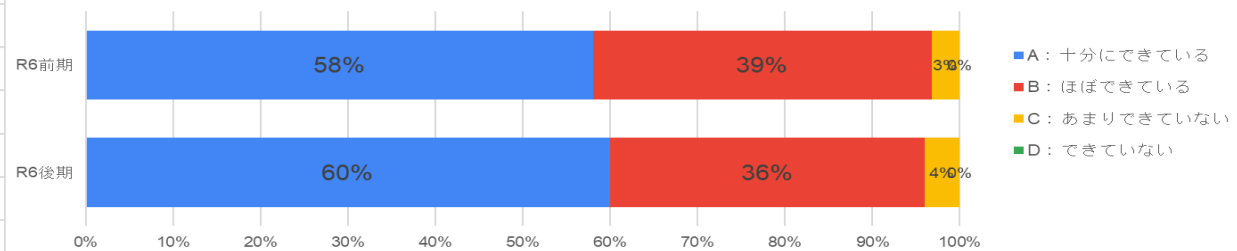
令和6年度学校評価（前期自己評価）結果の分析・改善案の立案						確かな学力	
分析・立案担当：岩下 大村 島田 矢田 岡 鶴田真							
良い点							
○確かな学力1の主体的対・話的で深い学びの充実に向けたICTを活用した授業作りの項目では、A・B合わせて94%となり、教職員のICT端末等を有効に使うという意識が高い。							
○個別支援が必要な児童が多くなってきている中で、特別支援教育や通級指導を利用する児童が増えている。その児童にあった支援ができるような教職員が関わっている。							
○学校図書館の利用について、児童の興味を引く取り組みがあり、利用状況の向上につながっている。							
課題点		改善策			取り組み		
・歩調を合わせてICT活用に取り組む		・校内研の時間や普段の学年会の中で、情報を交換したり、共有したりする。また、ICT端末などの研修会の情報を提供し、教職員のスキル向上に努める。			・ICT端末を効果的に使えるように学校全体で必要な事は確認を行う。研修に参加した人が、全体や学年などに還元する。		
・通級指導や特別支援の担当、支援員との打ち合わせや情報交換の時間がうまく取れない。また、支援が必要な児童が増え、支援が行き届いていない。		・朝の時間など空いている時間を見つけて連絡を取り合う。現状、人員が足りていないので充足できるように働きかける。			・できるだけ情報交換を行い、児童の現状を把握する。直接口頭で伝えられない時は、メモなどを使用して情報交換を行うようにする。		
以下は後期自己評価後に記入							
成果		課題点			次年度の方向性（案）		
・学校の授業と家庭学習が有機的に結びついている。		・ICT端末などを用いた授業の実際を見合う機会がなかった。			・ICT端末を効果的に使えるように研修会や授業見学などの取り組みを行う。		
・図書館の利用はいろいろな取り組みの成果があり、貸し出し冊数が多い。		・ICTにかかわった教職員のスキル向上の機会を設けていったほうがよい			・特別支援教育や通級指導にかかわり来年度もきめ細かく児童を見れるよう引き続き連携をとる。		
確かな学力1							
主体的・対話的で深い学びの充実に向け、ICT機器を活用した授業づくりに努めている。							
R6前期		39%			55%		
R6後期		40%			44%		
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%							
確かな学力2							
授業に有機的に結び付けられるよう、家庭学習（宿題や課題）の充実を図っている。							
R6前期		39%			48%		
R6後期		52%			48%		
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%							

確かな学力 3																								
★特別支援教育、通級指導の充実に努め、組織的に連携した教育を推進している。																								
<table><thead><tr><th>時期</th><th>A: 十分できている</th><th>B: ほぼできている</th><th>C: あまりできていない</th><th>D: できていない</th></tr></thead><tbody><tr><td>R6前期</td><td>42%</td><td>55%</td><td>3%</td><td>0%</td></tr><tr><td>R6後期</td><td>56%</td><td>40%</td><td>4%</td><td>0%</td></tr></tbody></table>										時期	A: 十分できている	B: ほぼできている	C: あまりできていない	D: できていない	R6前期	42%	55%	3%	0%	R6後期	56%	40%	4%	0%
時期	A: 十分できている	B: ほぼできている	C: あまりできていない	D: できていない																				
R6前期	42%	55%	3%	0%																				
R6後期	56%	40%	4%	0%																				
確かな学力 4																								
学校図書館を利用し、読書を通じた国語力の向上につながるよう努めている。																								
<table><thead><tr><th>時期</th><th>A: 十分できている</th><th>B: ほぼできている</th><th>C: あまりできていない</th><th>D: できていない</th></tr></thead><tbody><tr><td>R6前期</td><td>48%</td><td>48%</td><td>4%</td><td>0%</td></tr><tr><td>R6後期</td><td>56%</td><td>44%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr></tbody></table>										時期	A: 十分できている	B: ほぼできている	C: あまりできていない	D: できていない	R6前期	48%	48%	4%	0%	R6後期	56%	44%	0%	0%
時期	A: 十分できている	B: ほぼできている	C: あまりできていない	D: できていない																				
R6前期	48%	48%	4%	0%																				
R6後期	56%	44%	0%	0%																				
確かな学力 課題・意見（前期）																								
・ I C T機器を活用した授業スタイルが求められている中で、学校としてどのように機器を授業場面で活用していくのか歩調を合わせていく必要があるように感じる。そのためにも、校内研の時間を活用して、歩調を合わせることも大切に感じる。 ・ 家庭学習が毎日行われていることが、学力につながっている。特支に対しては、多くの教師が関わるべき。（特支担任の空き時間の確保も。） ・ 休み時間や授業中など、図書館を積極的に利用している様子がうかがえる。図書室のイベントなども児童の興味を喚起していると思う。 ・ 確かな学力を身につけられるように、学年の実態に応じた授業づくりに取り組んでいる。ICT機器の活用については、自分自身がまだまだ活用できるほどスキルが身につけていないので、研修などに積極的に参加し自身のスキルを高めていけるようにしたい。 ・ 昨年のDXにより、ICTの活用の意識は高まっている。 ・ 特別支援、通級指導の先生方と連携して指導にあたることができた。課題や情報を共有できることは心強い。 ・ 課題のある児童が多い学年であるため、特別支援や通級、支援員の先生方には様々な面でサポートしていただき大変ありがたい。その一方で、なかなか課題のある児童に関わる職員同士で情報を交流する時間が取れない現状がある。2学期以降は積極的に情報交換をする時間を取りたい。 ・ ICTの推進については、学年で相談しながら進めることができた。 ・ ICTを活用しながら子どもたちの学びを豊かにできるよう努めている。 ・ 対象児童の学力を伸ばすよう最大限の努力はしている。 ・ 学習支援ソフトの導入が進むと、今後ICTを用いた家庭学習の機会が増えていくと感じる。 ・ 個別の支援が必要な児童が多くいるので特別支援や通級などそれぞれの担当と連絡をとり行われていて成果がでている。人員的な不足感は常にあるので今後も家庭に協力を求めていく必要を感じた。 ・ チャレンジノートの内容に偏りのある児童が多いため、内容を充実させたい。 ・ 図書館≠国語力ではないと思うので、一人一人の興味関心を促すような環境づくりを全体として利活用してほしい																								
確かな学力 課題・意見（後期）																								
・ 図書の貸出数だけに捉われず、じっくり本を読めているのかや、読むことで日常表現が豊かになったり、具体的な国語力の向上を確認できているのかが課題だと思います。 ・ 自学を毎日行っていて、学力向上のためにとてもよい。授業を見合う機会がなく、授業改善が行われていない。 ・ さまざまな事情を抱えた児童が多い学校ではあるが、特別支援学級やサポートルームとの連携がしっかりしているため、個に応じた指導や支援がしやすい環境づくりができていると感じる。サポートやSCに支えていただいた1年間でした。 ・ ICT教育に苦手意識があり、授業での効果的な活用ができなかった。 ・ 低学年でのICT教育はどこまでやればよいのか、どのような使い方が有効かまだよくわからない。 ・ 低学年での基礎基本の力を身につけるように、授業の工夫に努めることができた。 ・ 児童もクロムブックなどICTの使い方に慣れていて、活用しやすくなっている。 ・ ICTの活用場面や活用方法など、他の先生方の実践をもっとする機会があったら良いと感じる。																								

令和 6 年度学校評価（前期自己評価）結果の分析・改善案の立案				豊かな心・望ましい集団	
分析・立案担当：		米倉 武井 萩原 三枝 笠井 武藤 新海 小林			
良い点					
○いじめへの対応・児童理解に対し,90%以上が意識して取り組めている。（ただし昨年度との比較では,その数値が減っている。）					
○生活アンケートや日々の生徒指導を丁寧に行い, 継続して見守り, 支援を行う体制ができている。（事案発生時に, 担任→学年→管理職への流れがスムーズにできている）					
○児童会活動では児童の自治的な意識を高め, 望ましい行動を進んでできるよう意識して指導している。（あいさつや言葉遣いなども）					
課題点		改善策		取り組み	
・学級力向上アンケートの活用がやや低い傾向にある。		・校内研などの機会を利用し, 学級力向上についての研鑽を深める。		・学級力向上を実施した場合には, 学年やブロックで交流し, よりよい学級経営の方向性について情報交換を行う。	
・あいさつは児童に個人差がある。（できているという声もあるが定着していないという声も挙がった）		・児童会本部・生活委員会とタイアップし, 児童発信の積極的な取組をする。		・生活委員会が行っている玄関での朝のあいさつを引き続き行い, 放送などでフィードバックし, 呼びかけを行い, 児童の意識を高める。	
以下は後期自己評価後に記入					
成果		課題点		次年度の方向性（案）	
・学年の実態により, 自己肯定感や他者理解のために学級力向上プロジェクトを活用したという声が聞かれた。		・教育課程の中で学級力向上プロジェクトをどのように位置づけるかが課題である。		・学級力向上を継続するのであれば, 教育課程での位置づけをはっきりさせて取り組んでいきたい。	
・あいさつは, 保護者や地域の方からもほめていただき, 日頃の指導の成果が出た。		・あいさつに対する意識の個人差はまだ残っている。		・今年度の活動を継続し, あいさつに対しての意識を持続していきたい。	
・生活アンケートでは相談できる環境づくりができていることがわかった。				・悩みに対して, 相談できる環境づくりに努める。	
豊かな心・望ましい集団 1					
いじめ防止基本方針を理解し、それに基づいた取り組みを推進している。					
R6前期 65% 29% 6% 0% R6後期 64% 36% 0% 0% A：十分にできている B：ほぼできている C：あまりできていない D：できていない					
豊かな心・望ましい集団 2					
児童の共感的理解に努め、愛情と信頼に基づく生徒指導に努めている。					
R6前期 68% 29% 3% 0% R6後期 72% 28% 0% 0% A：十分にできている B：ほぼできている C：あまりできていない D：できていない					

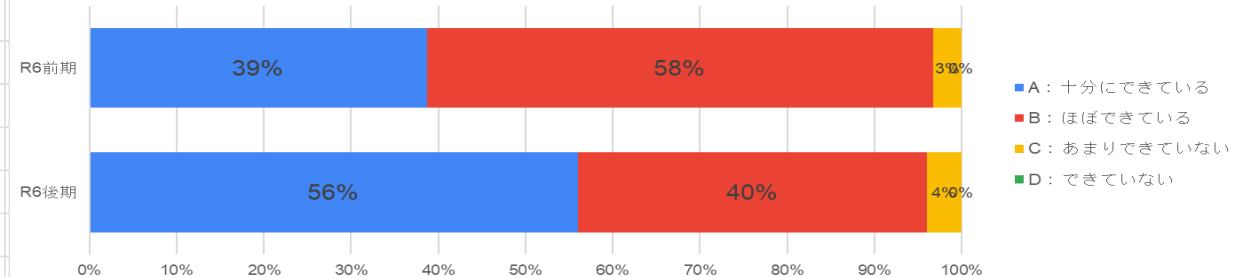
豊かな心・望ましい集団 3

SOSの出し方に関する教育の実施や生活アンケートを通じ、関係機関とも連携した組織的支援の充実に努めている。



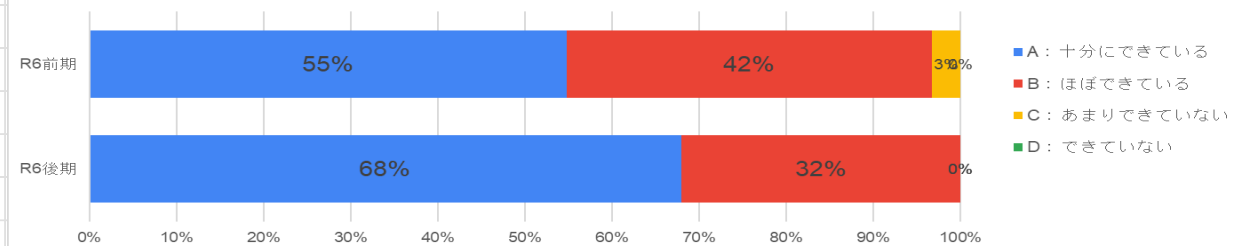
豊かな心・望ましい集団 4

体験的活動を重視し、思いやりの心や公德心を育む道徳的教育の充実に努めている。



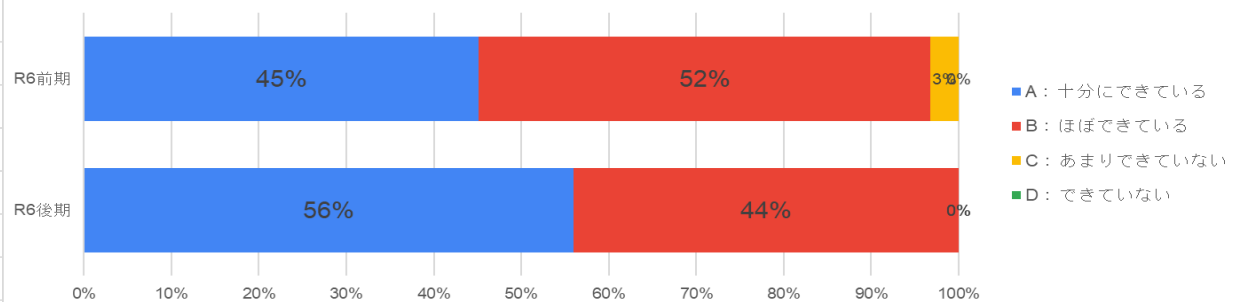
豊かな心・望ましい集団 5

児童会活動や清掃活動、当番活動を通して自主性、社会性、協調性の育成に努めている。



豊かな心・望ましい集団 6

明るく爽やかなあいさつ、場に応じた言葉づかい等、美しい言語表現の育成に努めている。



豊かな心・望ましい集団 7									
学級力向上アンケートを活用し、望ましい学級集団・学習集団の形成に努めている。									
R6前期 35% 52% 13% 0% R6後期 52% 44% 4% 0% A: 十分にできている B: ほぼできている C: あまりできていない D: できていない									
豊かな心・望ましい集団 課題・意見（前期）									
・あいさつなどを全校で意識できている。児童会執行部発信の活動などもあり、全校体制で取り組もうとする雰囲気を学校全体で感じる。こうした雰囲気が継続できるようにしておく必要がある。 ・挨拶・労働に対して積極的な児童が多く、教師もそうしたことの指導を丁寧にしている。 ・児童会で、児童のよい点を取り上げている活動が多く、意欲喚起や集団としてよい方向へ向かう力となっているように思う。 ・いじめ防止について。アンケートの集計を丁寧にを行い、各々がいじめの解消に向けて積極的に取り組んでいると感じる。 ・挨拶指導を行ってきたが、児童になかなか定着しない。 ・学級力向上プロジェクトは活用できていないが、望ましい学級を目指して、多くの活動を計画実施することができた。 ・交流学級で努めている。当番などはできることに限りがあるが、徐々に増えている。 ・学級力向上プロジェクトをしっかりと活用していきたいと思う。									
豊かな心・望ましい集団 課題・意見（後期）									
・心を育てるためにも、日々の言葉かけが重要だと思います。児童個人を「みんなで見ているよ」という雰囲気づくりを持続したいものです。 ・校内ですれ違うたびに挨拶を交わしていて、とてもよい。 ・学級力向上プロジェクトを活用することができなかった。学年の実態に応じ、望ましい学級集団作りに努めることができた。 ・日々の指導では、教職員としてあいさつや清掃に積極的に取り組む姿を児童に見せている。そのためまわりの児童は自分からあいさつや掃除に積極的に取り組むことができるようになってきている。全体でその意識を高められるとよりよいと感じる。 ・学級力向上プロジェクトは児童と教師で学級の姿を共通認識することができ、児童の自治的な意識を高めることができるので非常に有効である。 ・時数の関係で、学級力向上プロジェクトを活用するのが難しかった。 ・自己肯定感や他者理解を高めるために取り組むことができた。 ・児童会活動では、清掃活動や挨拶運動、縦割り活動等、望ましい集団作りの取り組みが日常的に行われ、子ども達の姿勢に変化が見られた。 ・学校全体で挨拶に取り組んでおり、挨拶をすると児童からもしっかりと元気な挨拶が返ってくる。 ・児童会の様々な取り組みのおかげもあり、全校児童が「良い学校にしよう。」と意識していると感じる場面が多くある。									

令和 6 年度学校評価（前期自己評価）結果の分析・改善案の立案						健やかな体	
分析・立案担当：		佐久間 関口 和田					
良い点							
・安全教育については、避難訓練，地区児童会や登校班指導，生活指導を中心に，丁寧に行うことができている。 ・チャレンジタイムを計画し，組織的な体力作りに向けて全校体制で機会を設けることができている。							
課題点		改善策		取り組み			
・基本的な生活習慣の育成をより図っていく必要がある。 ・運動に主体的に取り組もうとする児童の割合を増やしていく。		・様々な家庭事情を鑑みながら，呼びかけや情報提供に努める。 ・多様な動きについて，興味が湧くような内容の取り組みを行う。 ・全校で運動に親しみ，運動する機会を増やしていく。		・SCやSSW等専門機関とも相談しながら，家庭の実態に合わせて呼びかけや情報提供をする。 ・体育委員会が主導になり，様々な運動に児童が主体的に取り組めるよう，動画等で呼びかけたり，チャレンジタイムに取り組む。			
以下は後期自己評価後に記入							
成果		課題点		次年度の方向性（案）			
・個別懇談等を活用しながら，家庭での運動について声をかけたり，チャレンジタイムの実施や様々な体育的行事の中で運動の機会を設定したりして，児童の運動の習慣化に向けて取り組むことができた。 ・様々な防災訓練を通して，児童の防災意識の向上に努めることができた。		・児童の運動能力や意欲の向上が見られる反面、行事への取り組みに多忙さを感じる部分もある。 ・家庭や休み時間等、行事以外の運動機会の充実も目指していきたい。		・行事と教育課程のつながりを見直し、教育課程の入れ替えを行ったり、授業の冒頭部分だけ行事の種目を行ったりと授業の組み立て方を工夫する。 ・チャレンジタイムについては、内容を行事に偏らないように工夫したり、回数を見直したりしながら実施していく。			
健やかな体 1							
生活の安全、交通安全、防災等の安全教育に取り組んでいる。 R6前期 61% 32% 6% 0% R6後期 56% 40% 4% 0% A：十分にできている B：ほぼできている C：あまりできていない D：できていない							
健やかな体 2							
家庭との連携による基本的な生活習慣の育成に努めている。 R6前期 35% 61% 3% 0% R6後期 40% 56% 4% 0% A：十分にできている B：ほぼできている C：あまりできていない D：できていない							

健やかな体 3																								
楽しみながら自ら体を鍛える組織的な「健康・体力づくり」に取り組んでいる。																								
<table><thead><tr><th>時期</th><th>A: 十分にできている</th><th>B: ほぼできている</th><th>C: あまりできていない</th><th>D: できていない</th></tr></thead><tbody><tr><td>R6前期</td><td>35%</td><td>61%</td><td>3%</td><td>0%</td></tr><tr><td>R6後期</td><td>40%</td><td>60%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr></tbody></table>										時期	A: 十分にできている	B: ほぼできている	C: あまりできていない	D: できていない	R6前期	35%	61%	3%	0%	R6後期	40%	60%	0%	0%
時期	A: 十分にできている	B: ほぼできている	C: あまりできていない	D: できていない																				
R6前期	35%	61%	3%	0%																				
R6後期	40%	60%	0%	0%																				
健やかな体 課題・意見（前期）																								
・チャレンジタイムの活用などを積極的におこなっている。 ・朝体育の活動は、体づくりのためにとてもよいが、暑さの中で行うと児童の1日の意欲がそがれてしまう。 ・交通安全教育や防災訓練を行ったり、クラスでも安全について話などをしたりする中で、安全教育につとめることができた。 ・引き渡し訓練や不審者対応訓練など実際に対応できるように工夫されていてよかった。 ・生活習慣の整えは職員も保護者も個人レベルなので、難しいと感じます																								
健やかな体 課題・意見（後期）																								
・体育の授業内容と、楽しく体力づくりをすることが、スケジュール的にハードに感じる時期がありましたが、継続的な体力づくりだけならば、短期間に持久走をしなくて一年を通して縄跳びでもよいのではないかと思います。 ・チャレンジタイムを行うことで、運動に興味関心が湧いている様子が確認できた。なわとびの時期には、アスファルトの部分で多くの児童が跳んでいたり、マラソンの時期に、校庭を走っていたりする様子が見られた。 ・登下校は家庭が責任をもって行うべき。登校後の安全のために8時以降の登校にした方がよい。チャレンジタイムなど、体力を高める運動がされていてよい。 ・個別懇談を活用し、家庭で運動に取り組むよう声をかけることができた。 ・「健康・体力づくり」はマラソン大会が復活して3年目、継続して実践ができていると感じる反面、「確かな学力」を効率的に両立できるような工夫をしていきたい。2学期は運動会・マラソン大会・なわとびと間なく続き、落ち着いて学習に取り組むということが難しい。正直息つく暇がありません。そんな中で先生方が大きく体調を崩さなかったのは奇跡です。児童だけでなく私たち教職員の健やかな体こそが学校教育の資本なので大切にしていきたい。 ・チャレンジタイムが計画的に行われ体力の向上に取り組めたが、年々1年生の運動経験不足を感じている。チャレンジタイムのために、教育課程を削っている部分が出てきてしまった。 ・休み時間や昼休みに外で元気に遊ぶ姿が多く見られて良かった。 ・授業など、全体で取り組む健康・体力づくりの活動については楽しみながら取り組むが、休み時間等、判断を児童に委ねられた場面で体力づくりを選択しない児童の指導については、難しさや迷いなど課題を感じる。																								

令和 6 年度学校評価（前期自己評価）結果の分析・改善案の立案						地域・社会に開かれた学校	
分析・立案担当：		校長 教頭 三澤 各学年主任					
良い点							
・3年生の自転車教室等の活動を多くの保護者のボランティアの協力を得る中で実施することができた。 ・安心安全な学校・地域づくりのため、地域や保護者との連携に努めることができている。							
課題点		改善策			取り組み		
地域人材を生かした教育活動の推進。		・地域人材のニーズの確認。			・PTA活動ともリンクさせた地域人材を活用する活動の教育課程での位置づけを適切に行う。 ・CS委員に地域人材を紹介してもらう。		
さらに保護者、地域の方、CS委員の方に学校に来ていただく機会を設定し、地域に学校を開いていくという姿勢を示す。		少しでも学校に来ていただく機会を設ける。また、学校の様子を伝えるお便りを配布する。			奉仕作業、運動会、マラソン大会など、可能な範囲で地域・保護者に来校してもらい、様子を見てもらう。		
成果		課題点			次年度の方針性（案）		
・4年生の書写で地域の方に指導していただけた。 ・CSの取組として、地域見守り活動も継続して取り組みを行うことができ、地域にもだいたい浸透している。 ・自転車教室やマラソン大会等で保護者やPTA役員のボランティアの方にも大勢協力していただく中で、安全に行事を行うことができた。 ・ECHOSE学習の導入に伴い、地域の方に協力していただく中で学習を進めることができた。		・地域の人的・物的資源の洗い出し。 ・地域人材のニーズの確認。 ・奉仕作業等への保護者の協力意識。 ・学校における教育活動の発信力。			・教育ファームの草取りやマラソン大会前の落ち葉はき等、保護者ボランティアを積極的に活用していく。 ・いきいき教育地域人材活動推進事業の継続的な活用。 ・ECHOES学習推進のために地域人材を積極的に活用していく。 ・学校発文書のデジタル化の推進		
地域や保護者の学校教育参画のため、学校運営協議会の理解を深め活動が充実するよう努めている。 R6前期 19% 77% 3% R6後期 44% 52% 4% A：十分にできている B：ほぼできている C：あまりできていない D：できていない							

地域・社会に開かれた学校 2									
地域人材を生かした教育の推進に努めている。									
R6前期	10%77%13%0%								
R6後期	20%72%8%0%								
0%10%20%30%40%50%60%70%80%90%100%									
■ A：十分にできている ■ B：ほぼできている ■ C：あまりできていない ■ D：できていない									
地域・社会に開かれた学校 3									
地域や保護者に学校の教育活動について発信するように努めている。									
R6前期	29%68%3%0%								
R6後期	48%48%4%0%								
0%10%20%30%40%50%60%70%80%90%100%									
■ A：十分にできている ■ B：ほぼできている ■ C：あまりできていない ■ D：できていない									
地域・社会に開かれた学校 4									
安心安全な学校・地域を目指し、地域・保護者との連携に努めている。									
R6前期	39%61%0%								
R6後期	56%40%4%0%								
0%10%20%30%40%50%60%70%80%90%100%									
■ A：十分にできている ■ B：ほぼできている ■ C：あまりできていない ■ D：できていない									
地域・社会に開かれた学校 課題・意見（前期）									
・地域にどのような人材がいて、どんな場面で協力を得られるのか具体的なイメージが職員間で共有できていないように感じる。									
よい。									
・幼保小の連携も進めていきたい。									
・子どもたちと地域とを結びつけるような活動を通して学びを深めている。									
地域・社会に開かれた学校 課題・意見（後期）									
・学校が地域に協力して欲しいことを必要な都度周知しながら、地域でも児童を育てる体制づくりを関係機関でより整えてもらいたい（生涯学習課や子育て支援課ほか）									
・地域との連携を行うとともに、学校だけが担っている部分を地域や家庭に返した方がよい。普段の授業でもボランティアを集う（ミシン実習の手伝い、特別支援のサポート、1年生の下校など）									
とより望ましいのではないかと感じる。負担が大きいことは承知だが、意味のある活動になるかと思う。									
・1年生は、今年度は地域人材の活用ができなかったが、その分保幼小連携を進めることに重点を置いた。									
・保幼小の連携として様々な活動を行った。各幼稚園保育園と、密に連絡を取っていく中で、スムーズな引き継ぎがおこなわれていくと良いと思う。									
・地域人材を活用するには、学年単位ではなく学校全体で人材バンクを作り、学担の負担を減らすことで積極的に活用できるのではないかと感じる。									
・持続可能な教育活動を目指していくためには、教育課程を見直したり、学校全体で人材バンクを作成したりして計画的に実施していく必要がある。									

1 学期の活動全体を通しての意見等									
	・4月の異動により体制が変化する中で、先生方一人一人の気づきなどによって乗り切ることができたように感じる。職員の学校全体のことを考えて行動する姿勢をこれからも継続していくことが大切だと感じた。								
	・開放日と引き取り訓練が一緒だったのが、効率的かつ能率的でよかった。折角のPTA活動（和太鼓）だったので、全校で聞けるとよかった。全校集会を防災講話の時のように、時にはmeetを用いて教室で行い、移動時間短縮や暑さ対策をするとよい。								
	・異動してきたばかりで、まだまだ学校運営に積極的に協力できていないことが、大変申し訳なく思っております。所属学年はもちろん、子ども達や職員間、積極的なコミュニケーションを図る中で、よりよい関係づくり、スムーズな運営ができるように努力していきたい。様々な問題に対しても、全職員が共通認識の下チームで対応できるような組織であってほしいと思います。								
	・それぞれがすべきことを確実に、乗り越えてこれた1学期でした。突発的な問題が起きたときも臨機応変に対応することができました。また、教職員評価の面談が滞っていることが気になっています。								
	・日頃から様々な対応をしていただき心強い。人事評価面談等、計画的に実施していただけるとありがたい。								
	・問題が起きたときに管理職に対応していただき、感謝しています。お忙しいのは十分わかっているのですが、教員評価等、計画通りに進めていただけるとありがたいです。								
	・1年は、スタートサポーターを配置していただいたことにより、児童への手厚い指導を行うことができた。しかし、仮クラスから本クラスへの編成作業、またそれに伴う行事や児童理解、学級経営、保護者との連携など、とても業務が多く大変だった。スタートカリキュラムの成果と課題を洗い出し、来年度に向けて準備していきたい。								
	びを支えることができた。2学期も真摯に取り組みたい。								
	・職員として、全力疾走している様子が随所に見られます。「できないことがあってもいい」職員自身が疲弊しないように余裕を持っていたい。								
1 年間の活動全体を通しての意見等									
	・職員が、家庭状況を含めて多くの児童への対応をしている日々であり、親は、地域は、どうあってほしいのかと思うとき、自分の働き方も問い改善する機会でありたい。								
	・教員内で一定の人に比重がいかないようにする取り組みが必要。（授業時数の均一化や校務分掌の分化など）、行事や授業日数が多いので、児童に慌たしさがある。								
	・学年主任を中心に、ブロックごとに協力・相談をしようことで、学校運営がスムーズに進んでいったと思います。主任の先生方に感謝いたします。								
	・忙しい日々で、正直辛いときもありましたが、職員室の雰囲気明るいがせめてもの救いでした。今後も互いに相談し合える学校風土を大切にしていきたい。難しいことなどは承知していますが、持ち時間が可能な限り平等になれば個々の負担が分散し、全体の退勤時刻が早まるのではないかと感じています。								
	・教職員が協力して仕事を行っている。助け合う気持ちがとても強いと感じる。								
	・学校教育目標の実現に向けて、学年間・分掌間で密に連携を取りながら教育活動に努めることができたと思います。								
	・今年度は学校全体の組織運営を理解することを目標に取り組んできた。力不足で組織運営にはなかなか貢献できなかったが、自分自身なりに努力することができたと思う。								
	・管理職を中心にして、目標達成に向けて協力して活動できました。								
	・少しずつ先を見通す力を先生方の動きを見て、構築することができています。素直な児童と共に成長していくのが、毎日充実していると思います。来年度以降は、率先して仕事を行い、職員としても大きく成長できるように精進してまいります。								
	・わからないことや不安なことをいつでも誰にでも相談できる環境に感謝しています。今後も子どもたちの事を考えて務めていきたいと思います。								
	・欠員がいる中で、それぞれの立場で協力しあい、何とか1年過ごすことができたが、エコース事業など新たな活動が増え、多忙感は否めない。持続可能な活動にいくために、活動の見直しも必要だと感じる。								
	・職員間のコミュニケーションを積極的に行い欠員をカバーしながら指導にあたっている。エコース学習など負担感・多忙感を生じさせてしまう活動は見直しが必要。								
	・各ブロックや学年、学級の状況や出来事をアンテナを高くもって知る努力をしたいと感じた。知らないと感じ合えないので、情報を収集し、支え合えるようにしていきたいと思いました。								

令和 6 年度 日下部小学校の教育 保護者アンケートの結果

☐実施日及び方法

令和 7 年 2 月 18 日～2 月 23 日（2 月 27 日まで実施期間追加）

フォームによる回答

☐回答数

項目 1～4 番（児童についてのアンケート）児童数で実施：279 名（回答率 77.9%）

項目 5～18 番（学校についてのアンケート）家庭数で実施：183 名（回答率 66.1%）

☐アンケート結果の表記について

○各項目のグラフは、パーセントで表示されています。

○児童アンケートも関連項目とともに併記し、比較検討しました。

○自由記述によるご意見について

個人情報に関わる内容に配慮した上で、できるだけ原文の趣旨が損なわれないようにし、全家庭 配付に配慮した表現にさせていただき、また、同じ内容のご意見はまとめて載せさせていただきました。

☐アンケート結果から

全ての項目で、（「そう思う」「ややそう思う」）が 65%以上となる肯定的な評価をいただきました。課題となる評価（「あまり思わない」「思わない」）については、わずかな割合であっても、自由記述欄へのご意見と合わせ、改善に向けた取組を進めていきたいと思えます。アンケート結果から読み取れた課題について、学校教育目標に関連付け、次頁以降のように今後の取組の概要を示しました。

令和 6 年度 日下部小学校の教育児童アンケートの結果

☐実施日及び方法

令和 7 年 2 月 26 日（水）～28 日（金）

フォームによる回答

☐アンケート結果の表記について

円グラフで表記。

〈結果を受けての今後の取組の概要〉

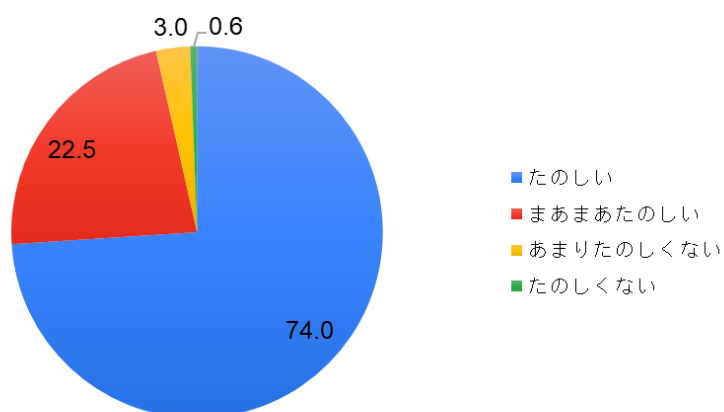
学校教育目標

『自ら学び 心豊かで たくましく生きる児童の育成』

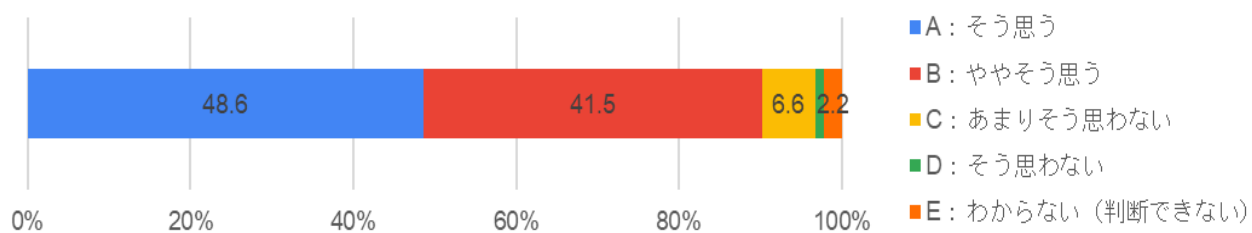
〈アンケート結果 帯グラフは保護者 円グラフは児童〉

学校経営・組織に関わって 保護者項目：①⑤⑥ 児童項目：①②

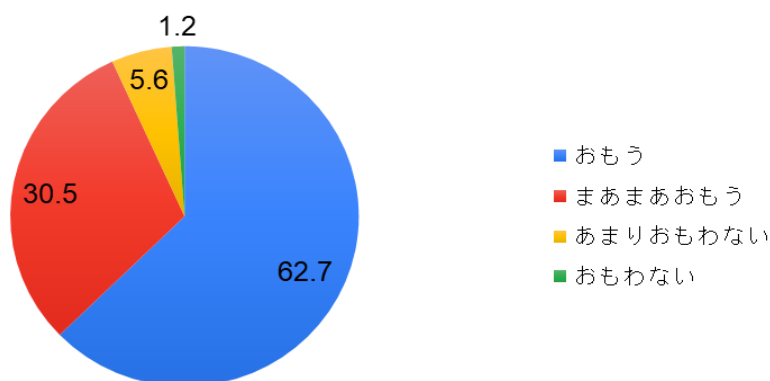
①あなたは楽しく学校に通っていますか。



⑥学校は、防災防犯などの危機管理に努め、自ら命を守る子どもの育成を目指した教育をしていると思いますか。



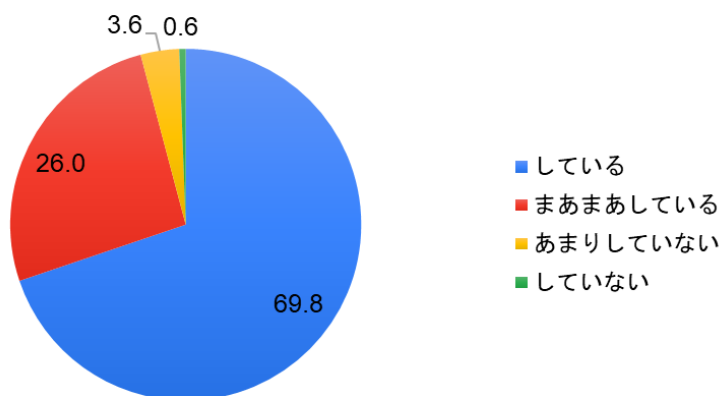
②あなたは地震が起きた時や不審者にあった時に、
正しく行動できると思いますか。



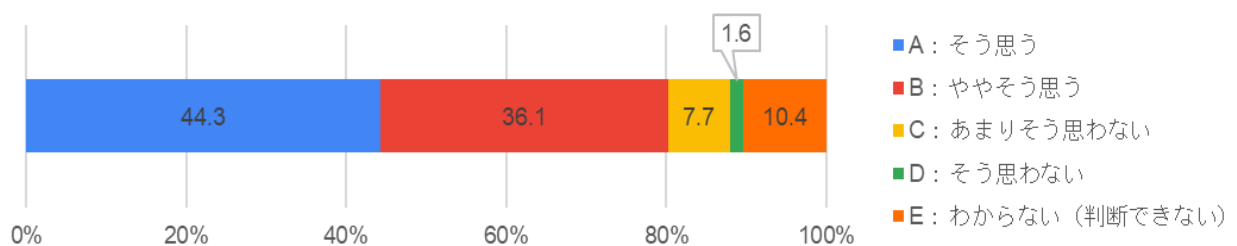
どの項目も肯定的な評価が85%を超える結果となっています。全体として、グランドデザインに則り学校教育目標達成に向けて前進しているということができると思われます。しかも、保護者も児童も「学校が楽しい」の項目では90%を超える高い数値でいるのは、グランドデザインそのものが本校に適したものであるということができると思われます。今後も、児童の共感的理解に努め、愛情と信頼に基づく教育活動に努め行きたいと思えます。今年度は、地震や火災を想定した避難訓練を4回、さらに引き渡し訓練やシェイクアウト訓練、防犯訓練を昨年度の反省を生かしながら実施しました。しかし、昨今、様々な自然災害が発生しています。いかなる場合でも、災害に際しまず「自分の命は自分で守る」ことができるよう、これからも様々な場面を想定した避難訓練等をなるべく早い時期に行っていきたいと思えます。今後も学校目標達成に向けて、力強く歩みを進めて参ります。

確かな学力に関わって 保護者項目：②③⑦⑧ 児童項目：③④⑤

④あなたは家庭学習(宿題・10分読書・自主学習)をしていますか。

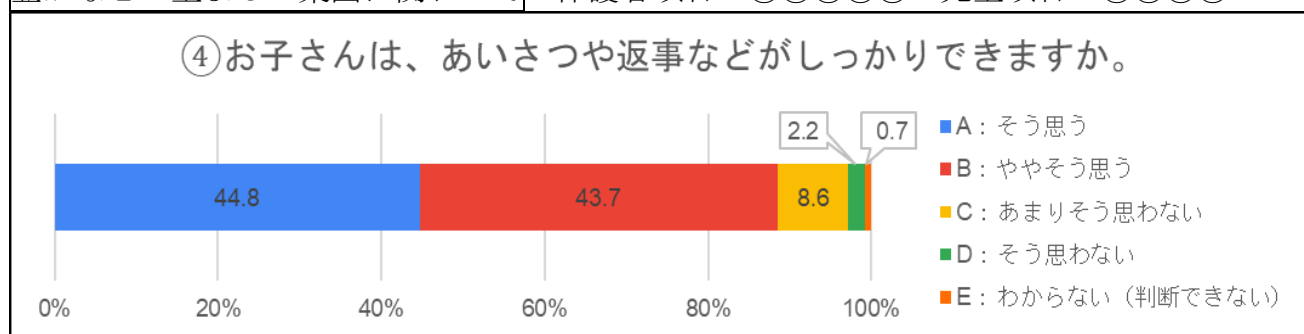


⑧学校は、個に応じた教育の充実のため、職員同士が連携して教育を進めていると思いますか。

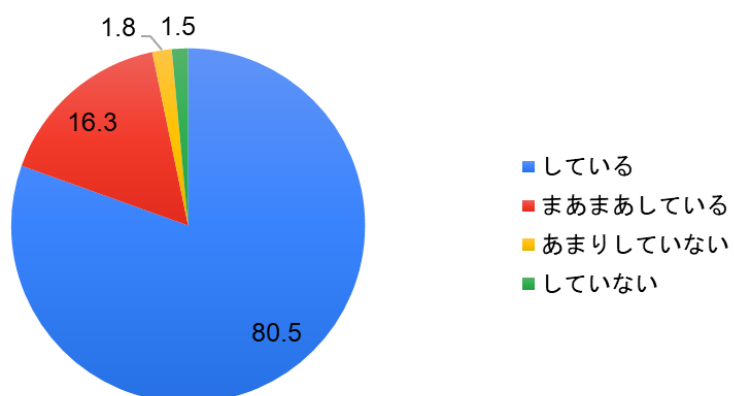


どの項目についても保護者は 65%以上、児童については 85%以上の肯定的な評価となっています。特に児童の④の項目の「している」の割合が昨年度と比べると大幅に伸びています。これも保護者の皆様の協力のおかげだと思います。また、個に応じた教育の充実のため職員同士が連携して日々の学習を進めている成果が見て取れます。家庭学習の習慣の確実な定着のために、今後も様々な取り組みを家庭と連携しながら進めていきたいと思っています。

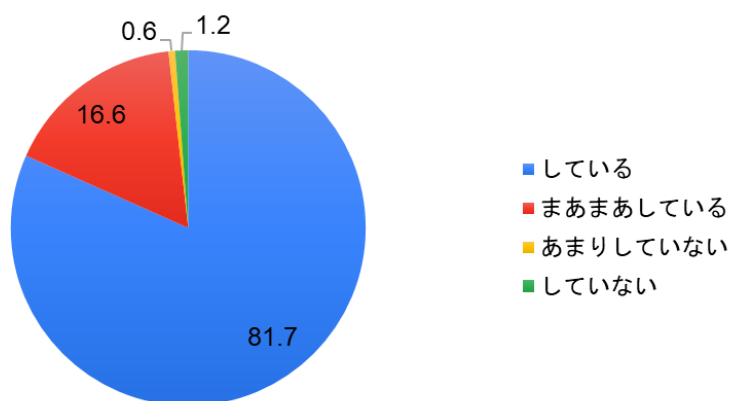
豊かな心・望ましい集団に関わって 保護者項目：④⑨⑩⑪⑱ 児童項目：⑥⑦⑧⑨

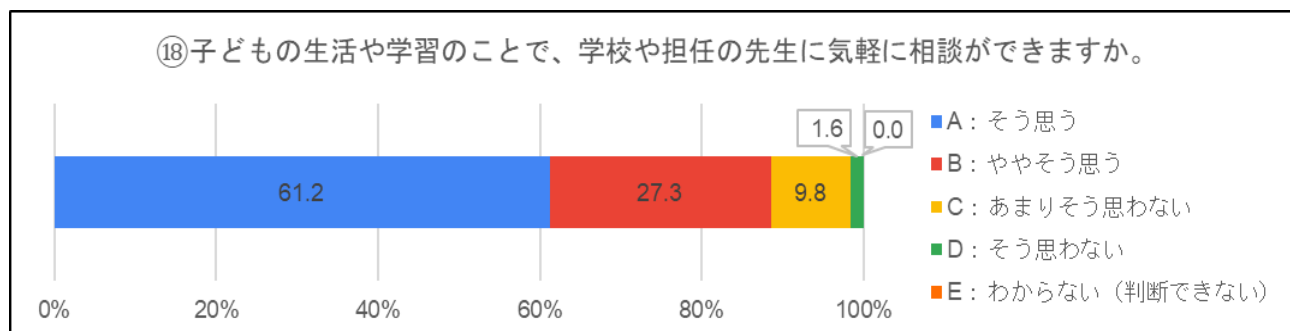


⑦あなたはいじめをせず、友だちと協力したり、仲良くしたりしていますか。

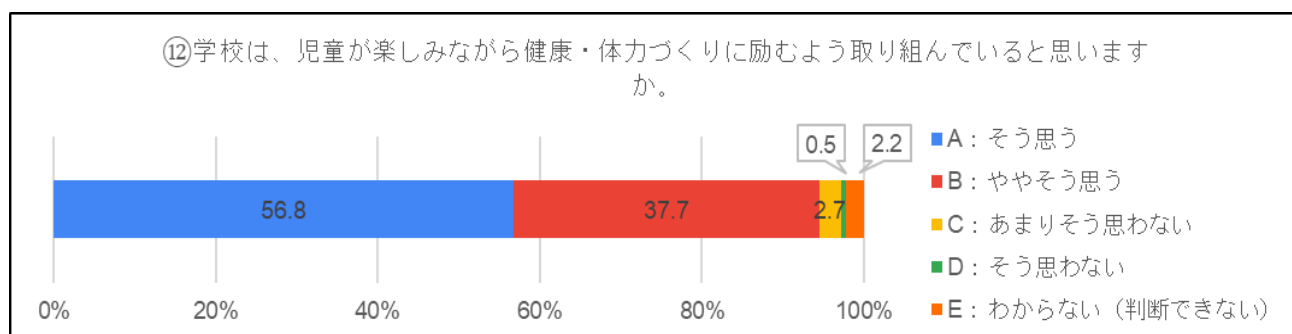


⑧あなたは交通ルールや、学校の決まりを守るようにしていますか。



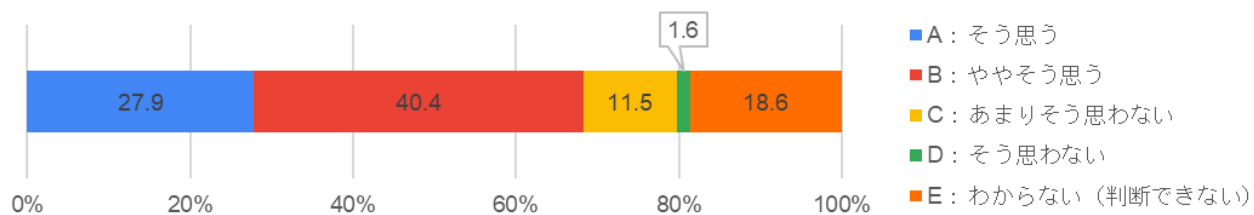


どの項目についても、保護者は 70%以上、児童については 80%以上の肯定的な評価となっています。特に保護者の項目⑱については、他の項目と比べ「そう思う」の割合が高くなっています。家庭と学校が全体として良好な関係を築くことができていることが分かります。児童を中心とした家庭と学校の両輪で児童の確かな成長につながります。職員間での情報共有を適切に行いながら、今後も保護者の皆さんが気軽に相談できるように努めて参ります。一方で、児童の項目⑨は他の項目に比べ「できる」の割合が低くなっています。担任だけでなく、学校の職員すべてが児童の先生であるという姿勢を持ち、カウンセリングマインドを大切にしつつ、児童に関わっていきたいと思います。また、児童の⑥も昨年度よりも「している」「まあまあしている」の割合が増え、高くなっています。児童会では今年、「友達・先生・地域の人に先手あいさつをしよう」を目標に『あいさつの輪運動』に取り組んでいます。地域の方や保護者からも、「以前に比べてみんなあいさつがしっかりとできるようになっている」という声を何件もいただいています。児童会を中心に校内だけでなく、地域の方々にも進んであいさつをしようという「あいさつ運動」の成果が出ていると思います。今後も、気持ちよいあいさつができる日下部小児童を目指していききたいと思います。

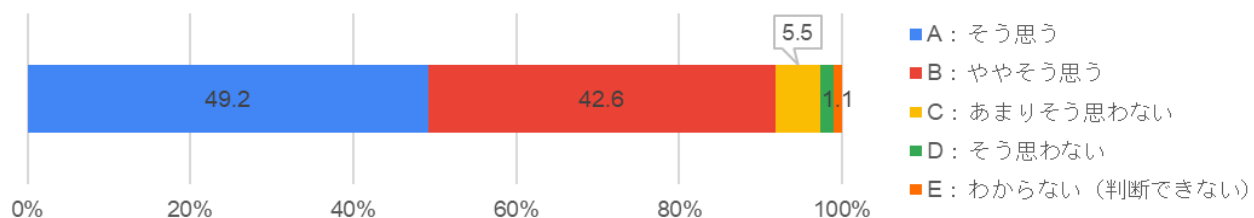


どの項目についても、児童、保護者ともに 85%以上の肯定的な評価となりました。ただ児童の項目⑩では、「しているの」の割合が増えたものの、「あまりしていない」「していない」の割合も増え、二極化が進んでいるように思います。今年は、毎週木曜日にはチャレンジタイムで楽しみながら体力アップができる取り組みを続けています。マラソン大会も大勢の保護者の協力のもと無事開催することができ、昨年度よりも体力が向上している様子がうかがえました。運動会も併せて体育的な行事への参観ができたり、当日までに家庭でも自発的に練習する児童の姿をご覧になったりした保護者が多かったのではと思います。将来にわたる健康的な体を育む上で、子どもの頃の運動や体を使った遊びはとても重要です。これからも、家庭でも運動や外遊びの推進にご協力ください。

⑮学校は、地域の人材等を生かした教育の推進に努めていると思いますか。



⑰学校は、児童の安心、安全の確保のために、家庭や地域との連携に努めていると思いますか。



どの項目についても、児童、保護者ともに65%以上の肯定的な評価となりました。今年度は、授業参観や学校開放日なども計画的に行うことができ、運動会での観覧の人数制限もなくなったので保護者の皆さんが来校する機会が以前より増えたことが影響していると思います。学校運営協議会の活動として、ながら見守り活動への協力を継続して地域にお願いしています。こうした地域への働きかけがあったことも、児童の項目⑪の結果からわかるように、地域で児童が安心して過ごすことができていることにつながっているのではと思います。一方で、保護者の項目⑮については、「わからない」が非常に多い結果となりました。多くの学年で「書写指導」「合唱指導」などで地域人材を活用した授業等を行っているのですが、⑯の「あまりそう思わない」の結果と関連があるのではと思います。今後も地域の人材を積極的に教育活動に活かしていくとともに、保護者の皆様にも、自転車教室などの各学年の活動、日常的な教育ファームの草取り等に積極的にボランティアとして関わっていただけるような取り組みもしていきたいと思います。必要な内容については、さらに積極的に情報発信していくことで、地域・保護者とともにより良く児童の育成が計られるよう、地域・社会に開かれた学校の推進に努めて参ります。

その他、自由記述では、これまでの本校の教育に対し、多くの励ましのお言葉をいただきました。職員が一丸となり、知恵と工夫を絞って日下部小児童の学びを前進させたことを評価していただきました。これからも、全力で本校教育の充実に向けて取り組んで参ります。一方で、課題点も挙げていただきました。改善すべき点は改善に努め、学校と保護者の連携をさらに高めていく中で、児童一人一人の豊かな学校生活をより確かなものにしていきたいと思っています。

自由記述

- ・学習は大事だと思いますが、宿題の量や内容が本当に適正なのか疑問に思います。また親の関与が多いですが、それが学校が目指している自主性を生むのか？と疑問です。
- ・日々、学習の指導など、ありがとうございます。
- ・持ち帰ってくるパソコンで検索できる制限がどこまでなのか知りたい。子供が何を見ているかわからない。（見せてくれない）
- ・とても良い先生に見て頂けて毎日楽しそうに通っています。授業も楽しめるような工夫をしてくださりありがとうございます。
- ・いつも子供への熱心な指導、ありがとうございます。多様な子どもたちに対応しようと努力している点が素晴らしいと思います。一方で、授業内容や指導方法が画一的になりがちで、子ども一人ひとりのペースに合った学びが十分に提供されているか気になります。

- ・いつもお世話になっております。子どもに寄り添い個々の課題に親身に対応していただける環境に感謝いたします。今後もよろしくお願いいたします。
- ・教育とは違うかもしれませんが、学校に相談したいことがある時、思いきって話をしましたが、先生方が親身に聞いてくださり、他の先生方と連携して校長先生まで知ってくれていたことに驚くと共に安心でき、相談してよかったと思ったことがありました。
- ・参観や懇談の折に、困っていることや希望をお伝えすると、可能な範囲で対応・改善してくれるので、とてもありがたいです。
- ・スタートカリキュラムが本当に良かった!!継続してほしい!!
- ・これからもよろしくお願いします。
- ・休み時間に集会とかがあるのは、流石に可哀想だなと思う。
- ・いつもお世話になっています。教育についてもそれ以外の生活においても問題点が全くなく、我が子を日下部小学校に通わせて良かったと常日頃から感じています。特に担任の先生にはいつも温かく相談に乗っていただき感謝しております。これからもどうぞよろしくお願いします。